

栃木県眼科医会理事会だより(平成22年度第1回)

日時：平成22年5月19日(水) 午後7時より

場所：宇都宮市医師会館

出席：宮下会長、原(裕)、旭副会長、木村、大久保(彰)、大野、吉沢(徹)、城山、苗加、落合(憲)、上田、牧野、井岡、斉藤(春)、高橋、斉藤(哲)、堤、松島(博)理事、松島(雄)監事、稲葉(光)、柏瀬、茨木、斉藤(武)顧問 計23名

欠席：福島、大沼、小幡、福島理事、鈴木監事、早津、田口、佐藤、妹尾顧問 計9名

[会長挨拶]

皆さんお忙しいところありがとうございます。今回、平成22年度の最初の理事会になります。いつものようにいろいろと難しい議題がありますので、よろしくお願ひします。

[総務]

報告：1. 平成22年度第1回日眼医定例代議員会、定例総会出席報告(4月3日(土)4日(日)東京プリンスホテル)

原(裕)副会長が出席。定員118名中113名が出席した。今回、定例代議員会では、三宅会長の退任に伴い各種の選挙が行われた。

1) 社団法人日本眼科医会代議員会議長・副議長選挙

出田秀尚議長、入江純二副議長

2) 社団法人日本眼科医会役員選挙

高野繁会長、白井正一郎、竹内忍、福下公子副会長

3) 社団法人日本眼科医会裁定委員選挙

以上、それぞれ可決定数以内であったため、賛成多数で可決承認された。

議事

第一号議案 平成22年度社団法人日本眼科医会事業計画の件

第二号議案 平成22年度社団法人日本眼科医会予算の件

第三号議案 平成22年度社団法人日本眼科医会会費賦課徴収の件

今回、力を入れる項目として

1. 総務部管理

1) 渉外活動の強化

(1) 特に日眼とは定期的に協議会を開催する。また、平成26年度に日本で行われる予定の国際眼科学会開催に協力する。

(2) 渉外活動のツールとして本会紹介用パンフレットを作成する。

2) 会員管理

会員名簿を作成し発行する。

3) 会務の効率化

ペーパーレスによる会務の効率化をはかる。

4) 80周年記念事業を企画し、記念式典を開催し関連事業を実施する。

2. 総務部企画

1) 眼科医療活動の推進

(1) 失明予防事業に協力する。

①WHO の提唱するVISION 2020 に協力する。

②国際失明予防機構 (IAPB)、日本失明予防協会、日本アイバン協会に協力。

(2) 国際協力事業助成要綱に従い、諸外国へ眼科医療援助を実施している団体への助成を行う。

2) 眼科医療の諸問題の検討

3) 眼鏡技術者の資格化活動への対応

各部と協力して、眼鏡技術者の資格化活動に関連して多方面の検討をする。

4) 本会における倫理の高揚の推進

倫理委員会において、本会における倫理の高揚をはかる方策を検討する。

5) 公益法人制度改革への対応

新公益法人制度検討委員会を開催し、新制度に適合した法人への移行について検討。

3. 経理部

経理の合理的運用

4. 公衆衛生部

1) 眼科健診事業の推進

眼科に特化した健診を幅広く推進する。

2) 眼科公衆衛生知識の啓発

(1) 国民に対する眼科公衆衛生知識の啓発運動を推進する。

(2) 日本眼科啓発会議における大局に着眼した啓発活動を、日眼と共同で行う。

- (3)「目の愛護デー」行事を推進する。
- (4)「目の健康講座」をブロックごとに開催する。
- (5)「目の電話相談」事業の整備と推進を行う。

3) 身体障害認定基準に関する委員会の開催

5. 広報部

1) 広報活動の実施

本会の事業活動を会員および広く国民に紹介し、理解を得る為に、各部と協力し、マスメディアなどを通じ、内外広報活動に積極的に取り組む。

- (1) 記者発表会を開催する。

2) 「日本の眼科」の発行

6. 学校保険部

1) 学校保険の知識の普及と現状の把握

- (1) 各支部に対して学校保険アンケート調査（仮称）を実施する。
- (2) 平成21年度学校現場におけるコンタクトレンズ実態調査の結果を報告し、今後の対応をはかる。

7. 学術部

1) 生涯教育事業の実施

生涯教育講座をはじめ各種講習会・講演会などの企画・開催を推進し、またこれらの地区開催に協力する。

2) 日眼総集会プログラム委員会への参画

3) 眼科コメディカル教育の推進および関連事業の検討、実施

- (1) 日本視能訓練士協会と協力し、共通の問題を討議する。
- (2) 視能訓練士の教育に協力し、雇用のための情報を提供する。

4) 日医の生涯教育事業への協力

日医の生涯教育制度に対応する。

8. 社会保険部

1) 日本眼科社会保険会議の開催

- (1) 日眼と協同で、日本眼科社会保険会議などを開催し、眼科の診療報酬が適正に設定されるよう検討する。
- (2) 眼科に関する診療報酬の問題について意思統一と対外的窓口の一本化をはかる。

2) ブロック別社会保険協議会の開催

全国審査委員連絡協議会と各支部健保担当理事連絡会の際に併せて開催

し、地方厚生局単位のブロック別に社会保険に関する諸問題を協議する。

3) 眼科診療実態調査の実施

平成22年度眼科診療実態調査を実施し、会員の保険診療の実態を把握する。

4) 眼科全国レセプト調査の実施・分析・検討

診療報酬改訂の眼科に対する影響データの取得のため、眼科独自のレセプト調査を実施、その結果を分析検討し、今後の診療報酬改訂に役立てる。

5) 適正な眼科保険医療の研究、検討と会員への情報提供

過去の日眼医本部見解について「日本の眼科」掲載分を集成し、全会員に配布。

9. 医療対策部

1) 医療問題適正化対策

社会的諸規範や医療に対する社会の要望について認識を深め、問題点の把握とその改善に努力する。

特に、眼鏡ならびにコンタクトレンズに関連する屈折矯正等の医学的知識の普及・啓発と適正な診療の確立をはかる。コンタクトレンズの諸問題についてはグランドビューをもとに対応を検討する。

2) 眼科医療関連業界との協調

日本コンタクトレンズ協議会・眼科用剤協議会・眼科医療機器協議会と協力し運営する。

10. 勤務医部

1) 勤務医委員会のかかえる諸問題の検討

(1) 勤務医委員会を開催し、本会に対する勤務医会員の要望およびそれに対する施策を検討する。

(2) 眼科勤務医の勤務環境検討小委員会を開催し、勤務医の待遇改善に関して検討する。

(3) 全国の勤務医会員が直接に交流し、情報交換する機会を学会（臨眼時のイブニングセミナー）等で設定する。

(4) 勤務医の勤務環境に関するアンケート調査を実施する。

2) 座談会等の企画運営

「勤務医の頁」特別企画として勤務医の問題をテーマにした座談会等を企画運営し、その模様を「日本の眼科」に掲載する。

3) 全国勤務医連絡協議会の開催

全国勤務医連絡協議会を開催し、勤務医会員のかかえる諸問題について

討議を行い、解決策を検討する。

4) 新眼科医数の動向の調査と検討

医療を取り巻く環境が変化する昨今、眼科を選択する医師数の減少が懸念される。

各支部の協力、新眼科医数の実数調査を行い、眼科指向者の実態の把握に努める。

ブロック代表質問

各県からの質問があり、執行部より答弁が行われた。

代議員会後、定例総会が開催された。

議事

第一号議案 社団法人日本眼科医会役員改選の件

第二号議案 社団法人日本眼科医会裁定委員改選の件

第三号議案 平成22年度社団法人日本眼科医会事業計画の件

第四号議案 平成22年度社団法人日本眼科医会予算の件

第五号議案 平成22年度社団法人日本眼科医会会費賦課徴収の件

議事について説明があり、承認された。

(詳細は日本の眼科第八十一巻第四号を参照)

2. 平成22年度栃眼医総会開催報告(4月11日(日) 自治医大)

例年通り第59回栃木県眼科集談会と同時に開催。出席者、委任状含め計119名(会員数160名)で総会は成立した。平成21年度会務報告、会計報告、平成22年度代議員会出席報告。平成22年度事業計画、予算案が原案通り可決された。また、眼科一次救急については、乱数表を用いたランダムな方法で平成22年度9月以降の順番が決定された。

3. 平成22年度第1回関ブロ支部長会議、連絡協議会の出席者と提出議題(5月29日(日)高崎市 メトロポリタン高崎)

支部長会議は宮下会長、連絡協議会は宮下会長、原(裕)副会長、早津、柏瀬、稲葉(光)顧問が出席予定。提出議題はなし。

4. 平成22年度の表彰者について

田口太郎先生、矢尾板栄子先生が該当するため本部に報告した。

5. 会員の異動

勤務先名称変更 A 加藤 健 (さくら市 かとう眼科)

改姓 B 加藤 有里 (高根沢町 たかはし眼科) 旧姓: 柿沼

勤務先変更・改姓 B 永澤 一恵（宇都宮市 フェアリーヘルメティカル）旧姓：反町

- 協議：1. 平成22年度第2回日眼医定例代議員会、定例総会出席者と提出議題（6月26日（土）、27日（日）京王プラザホテル）
原（裕）副会長が出席予定。提出議題は未定。
2. 日眼医連盟より依頼の吉田統彦氏（民主党）へのサポーター協力について
現衆議院議員で眼科医でもある吉田氏へのサポーター協力（年会費2,000円）依頼を今後会員にもお願いする予定。
3. 入会（転入を含む）希望者について
入会：C 富永 経一郎（自治医大）
全員一致で受け入れ承認とする。
4. 日眼医より依頼の「各支部役員名簿及び役員業務担当一覧」提出について
事務局より一覧表を提出予定。

[経理]

- 報告：1. 栃木県アイバンク協力募金箱集計報告
31医療機関分の合計224,590円を平成22年4月13日に栃木県アイバンクに送金した。
2. 第59回栃木県眼科集談会収支報告
収入：会費（A B 89名、C 5名）274,500円
支出：西洋堂300,000円、 会場費120,000円、 講師御礼100,000円、
御車代30,000円、 交通費15,000円、 医局御礼30,000円、
振込手数料420円、 合計595,420円で、
差額の320,920円を一般会計より補助。
3. 眼科初期救急体制整備支援事業補助金交付（平成21年度）について
県医事厚生課に実績報告書と収支決算書を提出し、交付金として500,000円が4月30日に振り込まれた。
4. 眼科初期救急体制整備支援事業補助金交付申請（平成22年度）について
前年同様、申請書と事業計画、収支予算書を提出した。
5. 入会金規定について
前回理事会の会員からの質問への回答。
新規入会：150,000円 分院開設：100,000円
管理者の交代時：親子、兄弟、配偶者の場合は免除、それ以外の親族の場合、病院で30,000円、個人診療所で20,000円、親族以外の場合は新規入会とみなす。

協議：1. 本年度眼医会費等の徴収について

6月はじめに案内を送付する予定。口座振替の場合は6月7日に引き落とされる予定。

2. 第49回日本白内障学会・第25回日本眼内レンズ屈折手術学会総会(6月25(金)～27日(日)大阪府、会長 松島博之先生)の助成について

本会より250,000円を助成する予定。

3. 第37回水晶体研究会(平成23年1月8日(土)、9日(日)日光金谷ホテル、会長茨木信博先生)の助成について

同じく250,000円を助成予定。

[学術]

報告：1. 第20回下野眼科談話会の開催報告(獨協医大、万有製薬共催、当会後援、3月19日(金)小山グランドホテル)

56名が参加、盛会のうちに終了。

2. 第59回栃木県眼科集談会開催の件(4月11日(日)自治医大)

99名が参加、盛会のうちに終了。

3. 第43回栃眼医研究会の開催の件(日本アルコンと共催6月11日(金) 宇都宮グランドホテル)

特別講演

1) 「医療訴訟の現状と問題点、トラブル回避のために心がけるべきポイント」
峰村健司先生 (河北総合病院眼科)

2) 「術後眼内炎 ― 不可逆性を可逆性に」

薄井紀夫先生 (総合新川橋病院眼科部長)

4. 第33回獨協医大栃眼医合同講演会の件(7月23日(金)獨協医大)

特別講演

1) 「前眼部の免疫」 福島敦樹先生 (高知大学医学部眼科教授)

2) 「後眼部の免疫」 園田康平先生 (九州大学医学部眼科講師)

5. 第18回栃木眼科セミナーの件(自治医大、興和創薬共催、当会後援 10月1日(金) ホテル東日本宇都宮)

特別講演予定

1) 緑内障について 青木由紀先生(自治医大)

2) 眼内レンズについて 太田一郎先生(眼科三宅病院)

6. 第50回栃木県総合医学会(6月20日(日)とちぎ健康の森)のプログラム送付について

ポスター発表：1階「大会議室」11:00～12:15(各15分)

シンポジウム：『新型インフルエンザの流行と対応を振り返って』12:50～14:50

基調講演：「生命輝かそう栃木の医療人～全員参加の地域医療～一地方病院のささやかな試み」15:00～16:30 一般公開

今回眼科からの演題提出はなし。

7. 日眼医から送付の第60回生涯教育講座ポスターの件

テーマ：「糖尿病と眼のすべて」

名古屋講座テレピアホール 平成22年7月3日(土)・4日(日)

東京講座よみうりホール 平成22年7月17日(土)・18日(日)

神戸講座西山記念会館 平成22年7月24日(土)・25日(日)

福岡講座アクロス福岡 平成22年8月28日(土)・29日(日)

協議：1. ファイザー社による個人情報不正使用について

5月28日開催予定の新薬発売記念講演会のダイレクトメールを、ファイザー社が栃木県眼科医会の名簿を使用して無断で会員宛に出していた事が判明した。医会の後援なしにこれを行う事は以前から禁止されている行為であり、個人情報の不正使用にあたる。協議の上抗議文を社長宛に送り、会の開催延期を求める事とした。(注：その後ファイザー社は謝罪とともに講演会の中止を表明した)

2. 眼科集談会の特別演者対応について(接待及び講演料、感謝状の準備についての再確認)

今後、特別演者に対し、昼食の準備を含む接待等を自治医大側に委託する事とする。講演料、感謝状は事務局が準備する。

3. 第60回栃木県眼科集談会の日程と特別講演講師、演題について

平成22年10月15日(金)に宇都宮医師会館で開催予定。特別講演講師は自治医大から選出予定。

4. 大塚製薬から依頼の「ミケランL A3周年記念講演会」の後援について(平成23年2月25日(金))

特定の薬剤名のついた講演会の後援をする事は専門医委員会の規定で禁じられているため応じられない。

[医療安全対策及び福祉]

報告： 1. 第72回栃眼医親睦ゴルフコンペ開催報告（4月29日（木）唐沢ゴルフ倶楽部）

医師11名が参加。稲葉全郎先生が優勝、松島雄二先生が準優勝。

2. 平成22年度眼科コメディカル試験の件

例年どおり帝京大医学部臨床大講堂で(5月15日(土))に施行予定。

協議： 1. 第73回栃眼医親睦ゴルフコンペについて

平成22年10月または11月にサンレイクカントリークラブで開催予定。

[保険]

報告： 1. 健保研究会の件（4月11日（日）自治医大）

井岡健保担当理事と社保、国保各審査委員が出席し、会員からの4題の質問に回答し、最近の審査状況について説明を行った。

2. 日眼医より送付の「眼科点数早見表(下敷き)と眼科診療報酬点数表(冊子)」の件

平成22年3月25日付で各会員宛に郵送された。その後一部誤りがあったため5月10日に正誤表が発表された。日本の眼科第八十一巻第5号に掲載予定。

(089 涙点プラグ 4,580円→4,510円)

3. 日眼医より送付の「平成22年度診療報酬改定における硝子体内注射算定について厚生省からの返答」の件(平成22年4月7日)

平成22年度診療報酬改定で新設された硝子体内注射（G016）について、加齢性黄斑変性症に抗VEGF薬を硝子体内注入する際の手技料として算定出来るかどうか、について厚労省に問い合わせていたが、算定出来る、という返答があった、との事。

4. 関ブロ健康保険委員会出席者と提出議題について（5月29日（土）高崎市ホテルメトロポリタン）

旭社保審査委員が出席予定。提出議題は未定。

5. 「薬価基準の追補収載について」日眼医より送付

ザラカム配合点眼液「ファイザー」 薬価1,306.00円 緑内障・高眼圧症治療剤（4月16日（金））

ディスコビスク1.0眼粘弾剤「日本アルコン」 薬価10,932.30円 眼科手術補助剤（4月23日（金））

協議：1. 平成22年度第1回栃木県社保国保審査委員連絡協議会の日程について

平成22年6月30日(水)に宇都宮医師会館で開催予定。

2. 平成22年度全国審査委員連絡協議会各支部提出議題ならびに支部実情事前調査依頼について

5月14日、支部の実情について4題の質問が送付された。井岡担当理事と各審査委員が内容について検討し5月20日回答予定。

[広報]

報告：1. 理事会だより送付依頼の件

平成22年4月19日付で会員に送付した。今後は県眼科医会のホームページに掲載されるが、印刷されたものを送付希望の方はFAXで事務局までお知らせいただきたい。現在回答を集計中。

協議：1. 既刊広報誌ホームページ掲載の件

過去5年間の栃木県眼科医会報について、PDFファイル化し県眼科医会のホームページに掲載する予定。それに伴い容量を1ギガに増やし、その他の内容充実も図って行く予定。

[学校保健]

協議：1. 第34回全国眼科学校医連絡協議会（7月25日(日)東京プリンスホテル）の出席者と提出議題

苗加理事が出席予定。提出議題は色覚検査の再施行問題についての質問を予定。

[公衆衛生]

報告：1. 「目の健康講座」開催予定を日眼医に報告、HPに掲載。

<http://www.gankaikai.or.jp/kouza/>

2. 「目の愛護デー」ポスター120枚日眼医に請求

事務局より請求済み。

3. アイバンク理事会出席報告（4月14日(水)東日本ホテル）

宮下会長が出席。平成21年度事業報告、決算報告、平成22年度事業案、予算案の他、今後のアイバンクサポーター育成についての方針や、公益法人化についての問題点などが討議された。

慰霊祭を5月22日(土)10:30より宇都宮八幡山公園で開催する。

4. 日眼医より送付の「3歳児眼科検診のすすめ」の件

協議：1. 「目の愛護デー」関連行事について(10月3日(日))

一般講演の講師を、自治医大に依頼する予定。広報うつのみやへの記事掲載やポスター、チラシの作製も進めて行く。目の健康相談の担当者の選定については、A会員リストが一巡したため、今後の担当順について勤務医学会員も含め検討していく予定。下野新聞への投稿は高橋雄二先生が担当する。

2. 眼科一次救急診療の当番辞退者の処遇について

該当者が理事会に出席し、会長に事情説明を行った。処遇は会長に一任し、今後引き続き検討する事となった。

3. 次期眼科一次救急診療の当番について

4月11日の栃眼医総会において、乱数表を用いたランダムな方法で平成22年度9月以降の順番が決定された。会員に確認の手紙を郵送済み。

4. 日眼医より依頼の「もうまく基金」普及啓発活動の協力について

NPO法人「もうまく基金」への協力依頼が日眼医の高野繁会長より事務局に送付された。日本網膜色素変性症協会を母体団体とし、網膜色素変性症の治療法の確立とQOLの向上を目的にして2008年に設立されている。

<http://www.moumaku.jp/>

[医療対策]

報告：1. 平成22年度栃木県C L販売管理者継続研修会講師について(とちぎ健康の森 12月5日(日) PM14:00~16:00)

講師として小幡博人先生(自治医大眼科准教授)と県薬務科から一名を予定。

[勤務医]

報告：1. 第15回栃木県眼科手術談話会の件(5月21日(金)宇都宮医師会館)について 演題

1) 「初めての核片落下」 上田昌弘先生(国際医療福祉大学塩谷病院眼科)

2) 「エアソフトガンのBB弾により脈絡膜破裂を呈した1例」

坂東誠先生(獨協医大)

3) 「電動式異物除去器を使用した翼状片手術」

高橋雄二先生(たかはし眼科)

4) 「Fordable IOL のトラブル」

柏瀬光寿先生(柏瀬眼科)

2. 平成22年度関ブロ勤務医委員会出席者と提出議題について（5月29日(土)高崎市ホテルメトロポリタン）

上田理事が出席予定。提出議題はなし。

協議：1. 栃木県眼科手術談話会の存続について

担当の上田理事から、演題提出が毎回少ないため、本会を存続させるべきかどうか検討してほしい、との提言があった。理事全員で協議し、今後は各大学で担当とテーマを決めて開催する、担当者もその度変更する、等、会の様式自体の変更も含め引き続き検討する事になった。

次回理事会は7月21日(水)に開催する。

以上

(吉沢 徹 記)